

和光病院



だより

VOL.12



撮影者 矢野 勇矢

和光病院の使命

「私たちの使命は、加齢に伴う精神と身体の病気で苦しむ人に、必要な医療サービスとケアを提供することです。」
私たちは、誠実さと、公正さと、謙虚さとを、行動の規範とします。

- ・自分たちの使命を誠実に遂行すること
- ・患者さんを経済力や、社会的立場で差別することなく、公正であること
- ・謙虚な姿勢で仕事に取り組み、職業的能力の向上に努力すること



新年の挨拶



院長 齋藤 正彦

新しい年が明けました。本年が皆様にとつて良い年になりますように、心からお祈り申し上げます。

私事ですが、私は今年、還暦を迎えました。このごろ、駅の階段を手すりに頼って登っていくお年寄りをみると、『僕は、あとののくくらいであなるのかな』と思うようになりました。数年前までは、そんなこと、少しも思いませんでした。いつ頃からか、地下鉄のホームに電車が来ていても、駅の階段を駆け降りることをしなくなりました。若い人が、一段抜かして駆け下りて行くのを横目で見ながら一歩一歩、降りて行きます。滑り落ちて無様に転んでいる自分の姿を想像することもありません。私はこのごろ、自分が残る人生をどのように生きるかと同じぐらいのウエイトで、自分がどうやって死ぬかを考えるようになりました。自分の老いや死が視野に入ってくると、医療を見る目も微妙に変わってきます。医学的に正しい医療、エビデンス（統計学的な根拠）の確立した医療だけでは、必ずしも医療を受ける患者さんやご家族の満足にはつながらないのではないかとい

う疑問が少しずつ大きくなっています。たとえば、認知症終末期には、食事が飲み込めなくなり、誤嚥性肺炎を繰り返すようになり、やがて死に至ります。誤嚥性肺炎を防ぐために、口から食べるのをやめて胃ろうを開け、そこから直接栄養を注入するという方法があります。認知症の終末期に胃ろうを作って経管栄養をするということは、日本だけの特殊な状況で欧米ではあまり行われていません。認知症の患者さんの胃ろうを作ることの効果については、延命ができるかどうかばかりではなく、栄養状態が改善するか、褥瘡が良くなるか、誤嚥性肺炎が予防できるかなどについてさえ、しつかりとしたエビデンスがない、というのが現在の状況です。しかし、効果が実証されていないから認知症の患者さんへの胃ろう造設はすなわち悪である、という主張

（実際このような主張をしている人も少なくないのです）にも、根拠がありません。効果が無いという証拠もないのです。鳥取市立病院で胃ろう造設手術を受けた³¹人の患者さん（このうち、¹⁴³人が認知症）の予後を調べた、檜垣文代先生、横田修先生らの研究では、胃ろう造設後の認知症患者さんの1年生存率は51%、3年生存率は24%で、生存期間の中間値は⁴¹⁵日でした。つまり、胃ろうを作ることによつて、かなりの期間、延命できる患者さんも少なくなっていくことは事実なのです。



もちろん、延命効果だけで胃ろう造設の問題を論じるわけにはいきません。たとえば、胃ろうを作ることと3年間延命できたとしても、その3年間を話もできずに、周囲の状況も認識できず、目的のある身体運動もできずにベッド上で過ごすという生き方を受け入れがたいと考える方もあるでしょう。医療費が不足しているときに、こういうことに医療資源を使うのは、浪費に等しいという主張もあります。他方、どんな状況であれ、自分の親が、あるいは自分の配偶者が、呼吸をして、生き続けてくれればそれだけでいいと考えるご家族があつても不思議ではありません。

胃ろう造設の是非に限らず、認知症の患者さんの医療上の選択は、エビデンスに基づいて機械的にすればよいというものではなく、患者さんや関係者の価値観によるところが大きいのです。厄介なのは、その価値観が、ご家族の中でも微妙に違うということです。私たちは、判断の材料となる医学的データを分かりやすく提示すると同時に、患者さんを中心とするご家族の様々な価値観をすり合わせ、個々の状況に配慮してその時その場で最も良い選択ができるようお手伝いしたいと思います。

事務局長挨拶



事務局長 萱沼 幹康

あけましておめでとうございます。
新春のお慶びを申し上げますと共に皆様方のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、先ず、3月11日の衝撃を思い出さずにはいられません。

まるでSF映画のような、信じられない津波の映像を見ながら、「これ日本？」と思わず声を上げたのを覚えています。今もお苦しんでおられる被災者の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

この震災という大惨事に加え、医療を取り巻く環境にも多大な影響を及ぼす可能性を秘めたTPP参加問題、消費税論議や円高が、さらに追い打ちを掛け、世界的にも、地震、洪水等の天災あり欧州財政危機ありで、かつて経験したことのないような大波乱の年であったように思います。

そうした中でも、サッカー女子ワールドカップで優勝した「なでしこジャパン」の活躍をはじめ、古川さんが国際宇宙ステーション167日間の滞在を記録して無

事帰還したことやスパコン「京」が計算能力で世界一を奪還したというような、日本の力を世界に示した、大変明るいニュースも数多くありました。

今年は、さらに重苦しい空気を一掃して、明るく前向きな希望に満ちた年になりますよう期待してやみません。まだまだ被災地の完全復興には、時間を要すると思いますが、「苦あれば楽あり」ピンチの後には必ずチャンスが来ると信じ、元気を出して一緒に頑張っていければと思っております。

和光病院にとつても、今年は、4月1日に開院10周年を迎えるという大変おめでたい話題がございます。その記念すべき年に、ご縁があつてお世話になる職員一人として、歴代の職員の皆様のご苦勞に思いを馳せ、また患者さん、ご家族の皆様、地域の皆様のご支援に感謝しつつ、10年前に皆が思い描いた最高の病院が出来上がったかどうか考えてみたいと思えます。

さらなる飛躍を目指すため、創立の精神、原点に立ち返り、和光病院の果たすべき使命とは？一体誰のための？何のための？病院なのかを再度熟考し、選ばれる病院、お役に立てる病院、そして愛される病院になる為に、これから何を成すべきか、しっかりと見極めて、次の10年のスタートラインに立ちたいと思っております。

小職は、昨年10月に着任して、まだ日が浅いこともあり、日々新しいことの連

続で、まさに四苦八苦、右往左往して足手まといの状態ですが、職員がチームワーク良く、安全に、笑顔で働ける職場づくりを目指し、縁の下の力持ちとして支えて行ければ良いかと考えております。

また、医療を取り巻く経営環境も今後さらに厳しさを増すことが予測されますので、老朽化に伴う再投資はもろろん、将来に向けた前向きな投資が可能になるような強固な経営基盤を早期に構築できるように全力で臨みたいと思っております。

私見ですが、安定経営のためには、和光病院が、日本を代表する認知症専門病院としての地位をさらに盤石なものとして、皆様に選ばれる特別な病院になることが、一番の近道ではないかと考えております。そして、それを実現し維持するために、職員の協力と院長はじめ経営層の確な経営判断が不可欠となります。事務局長として、如何に関わり、責任を果たせるかを熟慮しながら、少しでもお役に立てるよう努力して行きたいと思っております。

今年も、皆様に、ご満足頂けるよう、日々の積み重ねを大切に精一杯頑張りますので、倍旧のご指導、ご協力のほどお願い申し上げます。

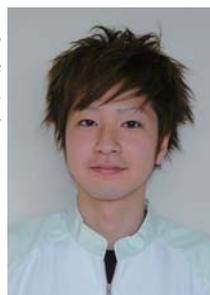


明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしく願いたします。

辰

5階病棟患者さん 菅原 和雄様 作

患者さんと関わる中で



2階病棟 田中 智也

病棟における介護職員の役割は、主に食事や入浴、排泄の援助などといった日常生活のお世話です。しかし、認知症の患者さんとかかわりは、スムーズにいかないことも少なくありません。

患者さんの中には、入院当初は食事に手を付けない方や、声をかけても頑なに口を開けない方がいらつしゃいます。そのような場合、すぐには下膳せずに合間をぬってコミュニケーションをはかりながら、召し上がれるように配慮しています。そのような患者さんも、環境に慣れて信頼関係を築くことができるのと「美味しいね」と言いながら召し上がっていただけると、患者さんになります。考えてみると、患者さんは、入院する以前、ご家族に囲まれて、好きなものをお好きな時間に召し上がっていたと思います。しかし、入院により慣れない環境で見知らぬ人た

ちの中で食事をしなくてはならないのですから、不安も大きく苦痛だろうと思います。

また、入浴も同様に、お誘いしても「今日は、入らないです」と断られてしまい、なかなか浴室にたどり着けないことがあります。その気持ちもわからなくありません。朝から入浴することや、見知らぬ人と入浴することは、家ではありえないことで、断られるのも当然です。そのような場合も、時間をおいて患者さんの気持ちが落ち着くのを待ったり、お誘いする言葉がけを変えたりしながら入っていただいています。

穏やかに落ち着いて生活できるように、患者さんおひとりおひとりを理解しなくてはと感じています。また、患者さんを見る角度が多方面であればあるほど、さまざまな視点で患者さんを理解することができると思います。患者さんと通じ合うことができます。大変嬉しく思います。これからも、その方に合わせた介護を工夫しながら患者さんの一番近くで、さまざまなお手伝いをさせていただきたいと思えます。

病棟の取り組み



3階病棟 高瀬 雅人

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

3階病棟の目標は、「自分の能力を最大限に活用し、お互いを高め合い、ケアの向上に努める」です。患者さんに寄り添い、多面的に物事をとらえられる様に、観察の眼を養うと共に的確に情報をとらえるケアを心がけています。

最近の3階病棟の取り組みは病院全体と同じく、個々のスタッフの専門能力を高めるため、介護技術、看護技術等、多方面の研修に積極的に参加しています。そこで学んできたことを、病棟スタッフの前で発表し、病棟全体のレベルの向上に努めております。

それ以外にもケアプランの充実に力を入れています。看護職と介護職がチームを組みケアプランを立案しています。全てのスタッフが個人の状態を理解し

問題点を多角的に話し合っています。

しかしケアプランで短期目標を立てても、日々状態の変わる患者さんが多く、定期的に見直すだけではどうしても適切な介護、看護が出来ない場合もあります。日々気が付いたことや意見などをその日に話し合い、そこだけでは決められない事は、カンファレンスノートに書き、より多くのスタッフで話し合います。患者さん一人一人に合ったケアプランの立案に日々取り組んでおります。

今後も安心して安全な病棟を目指し、一人一人の患者さんの状況に応じたケアをするためスタッフの技術向上に努めていきたいと思います。



レクリエーション



4階病棟 上林 洋昭

当病棟では、様々なレクリエーション活動を行っています。

最初に、カルタがあげられます。スタッフの読み声に真剣に聞き入り、取り札を取る患者さんの姿に圧倒されます。

また、四季を目で感じていただくために、季節を象徴するものを貼り絵で作って頂いています。患者さんとスタッフとの共同製作の中で、患者さんとのコミュニケーションがとれ、一緒に一つの物を作り上げたという達成感が生まれ、満足感も感じて頂いているようです。

その他にも患者さんによっては、オセロや将棋も指していますが、スタッフ、患者さん共に時の過ぎるのを忘れるくらい真剣になります。患者さんが勝った時は大喜びでその笑顔はとても素敵です。

その他には病棟で行う食事レクリエーションがあります。10月の食事レクリエーションでは



フルーツバイキングを行いました。おやつの際にバナナ、りんご等好きな果物を自分で選んでいただき、召し上がっていただきました。普段とは少し違うおやつに皆さん大喜びでした。

その他各階合同で行う映画鑑賞会、お花クラブ、にも参加して頂いています。

このようなレクリエーションを行うことで精神的に落ち着いて、心豊かな入院生活を送って頂く事ができると思います。今後も様々なレクリエーションを通じて、患者さんが落ち着いた入院生活を送れるようスタッフ一同頑張っていきたいと思致します。

外出レク



5階病棟 小高 賢一

空高く広がるうろこ雲に秋の深まりを感じる11月、患者さん4名と井の頭動物園に出掛けました。

園内には遠足に来ていた子どもたちで溢れ、その賑わう姿に皆、一瞬にして笑顔になりました。

初めに会ったのはモルモット。ここではモルモットを抱っこすることができました。「ねずみ!!」と驚く患者さんもいれば「可愛い!!持って帰りたいわ」とピースサイン。



つぎに向かうは、井の頭動物園内一の人気者、ゾウのはな子。ちようど食事の時間にぶつかり、バナナを頬張るはな子に釘付け。そんなはな子と記念撮影ハイチ



ーズ!!最高の笑顔。

他に、普段見ることのないカピバラ・アライグマ・フクロウなどなど多種多様な動物たちを間近に感じることができ、また秋光の中でお弁当を食べる等、季節を感じられるお出掛けになりました。

帰り道では、「動物園は何十年ぶりか楽しかったわ」「子どもと、上野動物園に行ったことを思い出すわ」と嬉しそうに話していました。

今年も様々な活動を通して、昨年以上に笑顔いっぱいこの病棟にしていきたいと考えています。

夜の病棟



6階病棟 岩崎 公彦

病棟の患者さんが寝静まった頃ある男性患者さんが「どうしたらいいか、わかんねえよ」とナースステーションの明かりをたよりに起きて来ました。「宝くじは当たったか?」「日中は口数の少ない患者さんですが、夜になると表情豊かに色々なお話をされます。「当選は明日の朝刊で見ましょう。今日はもう遅いのでお休みになりますか?」「それでもすぐには休んで頂けず」「それでもない話をして眠くなつてから病室へ誘導します。」「今度奥の病室から腰をさすりながら歩いてくる女性患者さんが来ました。「腰が痛くて痛くて、明日の仕事お休みさせてもらえないかしら...」「明日はお休みなので大丈夫ですよ。温かいお茶でもいかがですか?」「お茶を飲みながら、かつてされていたお仕事の話をお話しきりすると、「あら、もう遅いから寝なきゃね。お茶ご馳走さま。」と足早にご自分の病室に戻っていきました。だんだん外が明るくなってきて、ふと気がつくとき

ブルを一生懸命拭いている患者さんがいます。長年身についた習慣なのか日の出とともに自然に目覚めて掃除をされていました。ひと段落着いた頃を見はからって「朝の牛乳でもいかがですか」と座って休んでいただけるよう声をかけます。夜になると不安や寂しさを感じてしまいい、なかなか眠れずに起きて来られたり、繰り返すナースコールを押し返したりする患者さんも少なくはありません。夜の病棟では3人の職員が50人程の患者さんを見ています。点滴や吸引などの医療的な行為、トイレ介助や転倒しそうな患者さんの対応などで、全て患者さんに時間をかけて対応することが難しい現実もあります。しかし、不安や寂しさを感じる患者さんがいた時、私たちは仕事の手を止め患者さんの側で話を聞き、少しでも穏やかな気持ちになれるようなケアを心がけています。また、夜は病室で休まれている患者さんの安眠を一番に考え、その妨げにならないよう、眠れない患者さんは職員と一緒に居ていただくなど、病室が患者さんにとって安心して休める場所になるよう様々な工夫をしています。

ご家族の面会の多くは日中で、夜の様子は分からないこともあるかと思えます。面会にいらした際には夜の様子も病棟職員にお気軽にお尋ね下さい。

薬局

薬局では新里・坂元、2名の薬剤師が主に入院中の患者さんのお薬を作っています。お薬の用法・用量、相互作用を確認しながら、細心の注意を払って調剤して、患者さんが安心して服用できるように務めています。



新里

坂元

仕事の合間には窓越しに、車から降りていらつしやる患者さんと、患者さんに寄り添うご家族の姿が拝見できます。

外来の待合室には患者さんのすぐ隣にいて耳元で優しく話をする看護スタッフの姿が見えます。

もつと身近で、もつとお役にたてる薬局であるために、これまで以上に病棟との連携をしっかりと取り、薬剤師が病棟へ行く機会を増やしていければと思っております。

今後は、ご家族の皆様、病棟スタッフからの色々な質問、要望などにも、なお一層耳を傾け、親しみ易い薬局を目指して頑張りたいと思います。

今年も何卒宜しくお願い申し上げます。



医療福祉相談室

皆様は「医療ソーシャルワーカー」という職種をご存じでしょうか？医療機関での受診や入院、介護や生活、社会復帰のことなど、病気療養に伴う様々なご相談をお受けする専門職です。

最近ではほとんどの医療機関に「医療福祉相談室」が置かれ、一般科では主に「社会福祉士」、精神科では「精神保健福祉士」が担当しています。当院「医療福祉相談室」では現在5名の精神保健福祉士を配置し、患者さん、ご家族の最初の電話相談からお受けしております。

人は誰もが、病気にならず健やかに、例えば病気を患っても軽く早い回復を、万一病気が長引いたり障害を持つてしまっても不自由さや困りごとは最小限に安心して生活したいと思っております。

しかし、家族が病気に罹ると、これまでの生活が変化し、色々な心配事や問題が起こりがちです。

医療福祉相談室では、ソーシャルワーカーが個別にお話を伺い、福祉制度、サービスの利用等一緒に考え、解決に向けてのお手伝いをさせていただきます。相談は無料で秘密は厳守致します。お電話でご二報の上遠慮なく、ご相談下さい。



金本

鴻森

栗原

関口

(小川)

第7回 家族教室のご案内

「認知症高齢者の

権利擁護と成年後見制度」

院長 斎藤 正彦

入院・外来通院されている患者さんのご家族を対象に家族教室を開催します。認知症について理解を深めていただき、ご家族の皆様の病気や介護に関する疑問や不安の軽減に少しでもお役にたつことができればと考えています。

◆日時 平成24年2月10日(金曜日)

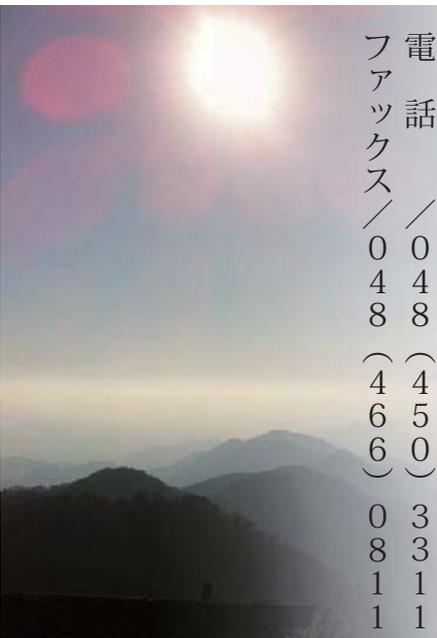
◆会場 和光病院7階多目的ホール

◆定員 50名

◆会費 500円

お申し込み方法は受付の御申込用紙に記入し受付にお持ちいただくか、医療福祉相談室にお気軽にご連絡下さい。

電話 / 048 (450) 3311
ファックス / 048 (466) 0811



診療の流れ

外来受診及び入院相談、病棟見学を希望される方は医療福祉相談室048-450-3311(代)へご連絡ください。相談員がお話を伺いご予約をお受けします。

【受付時間】

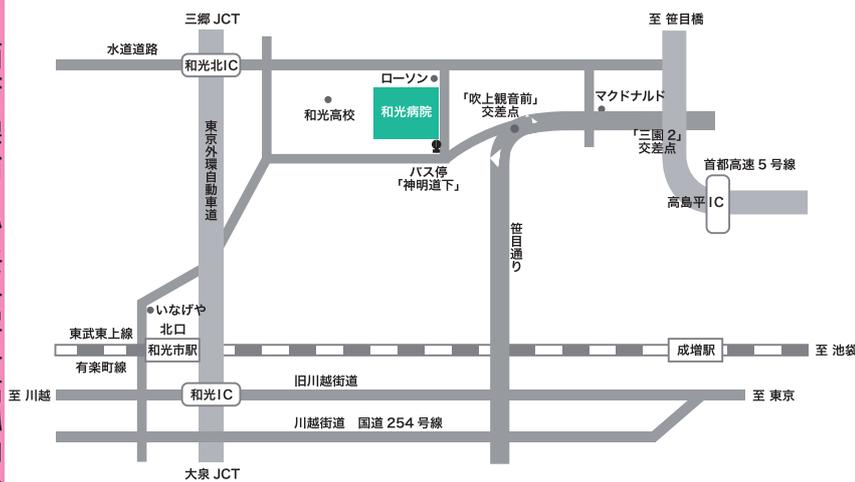
月曜日 ~ 土曜日 9:00-16:00

外来診察日・担当医

	月	火	水	木	金
午前診療(09:30-12:00)	—	斎藤 正彦	帖佐 隆	秋元 和美	松崎 尊信
午後診療(13:30-16:00)	井藤 佳恵	斎藤 正彦	帖佐 隆	秋元 和美	松崎 尊信

※完全予約制となっています。

交通のご案内



東武バス時刻表(H24/01/10現在) 「和光市駅北口発 和光高校循環」

時	月~金曜日					時	土曜・日曜・祝日				
8	7	17	27	40	50	8	14	30	45		
9	2	13	30	33※	55	9	13	30	44	55※	
10	20	40	55	56※		10	0	15	28	43	
11	10	24	40	55		11	0	14	17※	28	48
12	10	31	47			12	15	32	47		
13	12	30	32※	47		13	2	17	32	46※	47
14	2	17	32	47		14	2	17	32	47	
15	2	17	31	40		15	2	17	32	47	
16	1	18	35	48	54※	16	2	17	33	46	
17	4	19	40	55		17	3	19	31※	34	50
18	14	23※	28	38	48	18	11	27	42	57	
19	2	18	30	43※	46	19	11	30※	35	57	
20	10	28	40	56		20	19	42			
21	11	18※	28	42	57	21	4	26	48		

東武東上線、有楽町線、副都心線「和光市駅」北口より東武バス(和光高校循環)にて約10分、「神明道下」下車徒歩3分又は「福祉の里入口」下車徒歩3分。

(※は成増駅北口発、‡は和光市駅南口③番発)

編集後記

顧問 白濱 龍興

明けましておめでとうござい
す。病棟の紹介記事、スタッフがい
ろいろと工夫をこらして患者さん
と同じ目線で仕事をしている姿が
目に浮かびます。患者さんの笑顔
も素敵です。

当院では御用始めの日に「ダル
マの目入れ」をしております。各
部署の1年間の願文(目標等)を
ダルマの中に入れ、あわせて順次
左目に黒目を入れ、左目を完成さ
せます。片目のダルマは各部署を
回りながら1年間を職員と共に過
ごし、御用納めの日に、ダルマの
中に入れた願文を取り出します。
各部署の代表はそれぞれの達成度
を発表し、右目に黒目を入れ、両
目が開いたところでダルマが完成
します。今年のダルマの中にはど
んな「願文」が入ったのでし
ょうか？

読者の皆さんにとって良い年
でありますように。

